令和６年度《学校経営計画》

名張市立蔵持小学校　　学校長　川合　　哉

1　学校教育目標

「 し あ わ せ 」の学校をつくる

－経験を積み重ね「知識」を「知恵」にかえ、主体的に行動できる子どもを育てる－

2　めざす学校像、児童・生徒像、教職員像、保護者・地域像

○学校像	○　子どもたちが「学校に行くのが楽しい」と思う学校 ○　児童も教職員も安心して学べる学校 ○　保護者・地域に信頼される学校
○児童・生徒像	し：しんけんに考える人になる　　じぶんからとりくむ人になる あ：あいさつができる人になる　　あした、したいことがある人になる わ：わたしもあなたも大切にする人になる　　わかろうとどりょくする人になる せ：せかいに目をむける人になる　　せきにんをもってやりぬく人になる
○教職員像	○　子どもに対する愛情や責任感をもち子どもたちに寄り添う教職員 ○　学力・体力向上を実現するために授業改善に努める教職員 ○　「チーム蔵小」の一員として、つながり合い、組織的に取り組む教職員 ○　保護者や地域住民の期待に応え、信頼される教職員
○保護者・地域像	○　学校と連携して子どもを育てる保護者 ○　学校と連携することで、教育効果を高める地域

3　学校の現状

（児童）
・友だちや先生の話をしっかりと聞くことができる。
・基本的な生活ルールを守り、落ち着いて学習や生活ができるとともに、係活動や清掃活動等にまじめに取り組む姿が見られる。
・学習でわかったことや得た知識、技能を活用することが不得意な児童が多い。
・コロナ禍を過ごしてきた子どもたちは、様々な活動が制限されてきたため、自分の考えを表現したり、自分の言葉で積極的に伝えたりするのが苦手と感じており、自信が持てない児童もいる。

（教職員）
・全教職員で、子どもたちの豊かな学びと育ちに向けて取り組もうとする。
・助け合い協力して課題の解決に当たろうとする姿勢がある。

（保護者・地域）
・学校の教育活動を支援してくれる保護者・地域、ボランティアの体制・活動が充実している。

本年度の改善方策

○保護者、地域の協力のもと、意図的に地域の人・もの・自然に触れ、体験的な学習を通じて、興味・関心を持たせ、自らが課題を見つけ取り組む姿勢を育てることにより、探究心を育て、学習意欲の向上につとめる。また積極的に授業改善に取り組み、協働的な学習を通して学ぶことの楽しさや達成感を味わわせ、それらの経験を積み重ねることにより、主体的に学び行動する力を養う。
○学級集団づくりを見直し、日々の授業や行事、児童会活動や体験活動を通して子ども同士のつながりと居場所づくりをすすめる。これらの活動から一人ひとりが活躍する場を与え、成就感や自己有用感を育み、学校が子どもにとって楽しい場所となるよう工夫、改善する。
○教科担任制等により子どもたちを多角的に理解し、多くの教職員で、きめ細やかな指導・支援を充実させるとともに、学校運営協議会を活用し、主体的な学校運営への参画を通して、保護者・地域との連携を深める。
○「チーム蔵小」として元気あふれる職員集団であるために、コミュニケーションを通して働きやすいと感じる職場を目指し、休暇の取得、業務負担の軽減、時間外労働の縮減を中心とした働き方改革の推進に努める。

4　重点的な取組事項

番号	内　　容	実施期間				
		4	5	6	7	8
1	多くの経験を積み重ねることで主体的・協働的に課題を解決する力を養い、学習意欲の向上をめざす。	－	○	○		
2	互いに認め合える集団づくりと居場所づくりをすすめる。	－	－	○		
3	家庭・地域と連携し、信頼される地域とともにある学校づくりを進める。	○	○	○		

５　令和６年度の重点目標

重点的な取組事項－１	多くの経験を積み重ねることで主体的・協働的に課題を解決する力を養い、学習意欲の向上をめざす。
Ａ　今年度の成果目標	
「授業がよくわかる」と感じている児童の割合…90％以上	
Ｂ　目標実現に向けた取組	
具体的な方策	
	地域の資源を活用し、様々な体験学習を通して、興味・関心を持ち、協力して行うなど、多くの体験や経験を積み重ねることで発達段階に応じたキャリアを形成するとともに、主体的・協働的に課題を解決する力を養うことを通して、学習意欲の向上に努める。
②	ペア学習やグループ学習など協働的な学習により子どもたちが「主体的に学ぶ喜び」を実感し、学力・体力向上を実現する授業改善に取り組む。
③	様々な活動を通して自ら学び行動できる力や自分の考えを表現するための言語能力を育成するとともに、体験学習等を通して、学習したことを次の行動にする力、「知識」を「知恵」に変え行動する力を育てる。

重点的な取組事項－2	互いに認め合える集団づくりと居場所づくりをすすめる。
Ａ　今年度の成果目標	
「学校へ行くのが楽しい」　「相手のことを考えてなかよく生活している」 と感じている児童の割合・・・90％以上	
Ｂ　目標実現に向けた取組	
具体的な方策	
	ESD を視野に入れた様々な体験活動や学習場面において「肯定的な振り返り」により子どもたち相互が認め合い、教師が「褒める、認める」場面を意識的につくることにより児童の満足感、自己有用感を高める。
	どの子も安心して学校生活が送れるよう特別支援教育の視点を大切にした教育を充実させるとともに、道徳観や人権意識を高め、互いを認め、支え合える豊かな心を育て、正しい行動を実践する力を育成する。
③	教室での観察や Q-U 調査等を通じて子どもたちの思いや状況を把握し、また教科担任制等の利点を生かし、教職員間の情報共有を密にし、子ども同士がつながる活動、声かけなどの工夫を講じる。

重点的な取組事項－3	家庭・地域と連携し、信頼される地域とともにある学校づくりを進める。
Ａ　今年度の成果目標	
「学校は、保護者・地域との連携を大切にしている」と感じている保護者の割合…90％以上	
Ｂ　目標実現に向けた取組	
具体的な方策	
①	学校運営協議会での熟議を充実させ、授業参観・懇談等を行う中で、育ってほしい子どもの姿や成長した姿、子どもの願いを共有し、保護者・地域と連携・協働した取組を行う。
②	「学校・地域協働活動年間計画」の実施を推進することで、学校支援ボランティアをはじめ、保護者・地域の方々の参画を図り、継続的に学校・家庭・地域が協働して子どもを育てる体制を定着させる。
③	子どもたちの学習活動や生活状況等について、ホームページ・学校だよりや学年通信、個別懇談、地域の会議等で保護者、地域に情報発信・情報提供をする。

６　学校における働き方改革の推進に向けた取組

上限時間に基づく目標		
成果指標①	１人当たりの月平均時間外労働	20 時間以下
	年 360 時間を超える時間外労働者数	０人　　（変更不可）
	月 45 時間を超える時間外労働者の延べ人数	０人　　（変更不可）
具体的な方策	○タイムカードによる出勤・退勤時刻の把握の徹底により、時間外労働時間短縮に対する個々の意識改革を図る。 ○会議の回数を精選し計画的な仕事運営をすることにより仕事の効率化を図る。	
休暇取得促進の目標		
成果指標②	１人当たりの年間休暇取得日数	20 日以上（各学校で設定）
具体的な方策	○休暇取得に対する個々の意識を高め、職員相互の意思疎通を図り、協力することで休暇を取りやすい環境を創る。長期休業中を利用した休暇のまとめ取りの推進。 放課後の会議がない日など、時間単位で休暇が取れるよう働きかけをすすめる。	
学校独自の取組		
活動指標	設定した日の定時に退校できた職員の割合	60%以上
	予定通り休養日を実施できた部活動の割合	●%以上
	放課後に開催して 60 分以内に終了した会議の割合	60%以上
具体的な方策	○定時退校日を月１回設定し、計画的勤務に努める。 ○授業時数を確保した上での短縮日課等の開始時期の検討。 ○会議資料の事前配布を進めるとともに、事項書に所要時間を明記する。 ○ICT を活用した会議のペーパーレス化を進め、業務削減に繋げ、負担の軽減を図る。 ○ダブレット、ホワイトボードを有効活用し、朝の打合せの回数を減らす。	